

学校教育

子ども課学校教育係 ☎ 0943-32-1194

図1：標準化得点の比較（小学6年生）

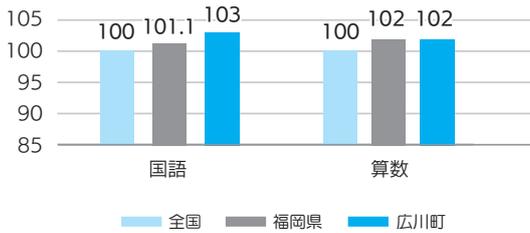
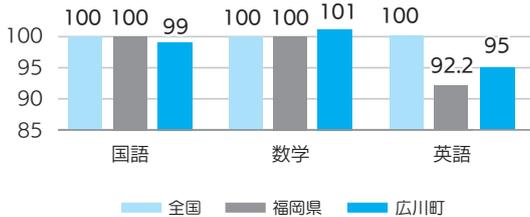


図2：標準化得点の比較（中学3年生）



※標準化得点は、国が示した計算方法で算出しています。

表 学習状況調査の結果
児童数・生徒数の割合（ ）内は全国平均との比較

	全国平均を上回ったもの	全国平均を下回ったもの
小学6年生	自分には良いところがある 49.4% (+6.8%)	いじめはいけないう事だ と思う 81.6% (-1.0%)
	先生は良いところを認め てくれる 54.6% (+4.7%)	学校に行くのが楽しい 45.4% (-4.4%)
	友だち関係に満足している 69.0% (+5.8%)	平日1時間以上読書する 17.2% (-1.3%)
	家で自分で計画を立てて 勉強している 76.4% (+5.7%)	学校でICT機器を週1回 以上使用した 81.6% (-4.7%)
中学3年生	朝食を毎日食べている 81.7% (+3.1%)	自分には良いところがある 33.3% (-3.9%)
	毎日同じ時刻に寝ている 38.6% (+3.9%)	平日1時間以上勉強する 60.1% (-5.7%)
	毎日同じ時刻に起きてい る 63.4% (+8.6%)	平日1時間以上読書する 15.0% (-1.2%)
	地域の行事に参加している 51.6% (+13.6%)	学校でICT機器を週1回 以上使用した 80.4% (-7.1%)

4月18日(火)、文部科学省が全国の公立学校の小学6年生と中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を行いました。7月31日(月)に調査結果が公表されましたので、広川町の結果をお知らせします。

学力調査

小学校は、国語・算数の2教科、中学校は国語・数学・英語の3教科で実施されました。英語は、スピーキングと記述問題が追加され、総合的な学力が問われるようになりました。結果は平均正答数を100としたときの平均得点(標準化得点)で表してい

ます(図1、図2参照)。小学校の結果は、国語・算数ともに全国と県の平均以上の良好な結果でした。中学校の結果は、国語・英語が全国平均を下回り、数学は全国と県の平均を上回りました。今年から取り入れられたスピーキングについての公表はされていません。

学習状況調査

学習調査と同日に、学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面などの調査もありましたので、結果の一部をご紹介します(小学6年生が59項目、中学3年生が72項目)。

- ・ 朝食を毎日食べている
- ・ 毎日同じ時刻に寝ている
- ・ 毎日同じ時刻に起きている
- ・ 学校に行くのが楽しい
- ・ 新聞をよく読んでいます
- ・ 家で自分で計画を立てて勉強している
- ・ 将来、積極的に英語を使う生活をしたたり職業に就きたい

学力と学習状況の関係

学習状況調査の各項目で、高い割合を示している児童生徒ほど、学力も高いという結果が報告されています。特に、学力の差が大きく見られたのは、次の項目です。

広川町PTA連合会では、「早寝、早起き、朝ごはん」をスローガンに掲げています。子どもたちの「健やかな体、豊かな心、確かな学力」を育成するためには、基本的な生活習慣の習得が必要不可欠です。「読書の時間を設ける」や「ゲームやスマホなどの使用は短時間でお知らせする」学習意欲を向上させる「学力向上につながる」など、家庭でよく話し合い、家庭内でのルールを作り、改善策を探りながら、家族みんなで規則正しい生活環境を整えていきましょう。

生活環境と学力向上の関係

みんなに優しい地域づくりを目指して

～ 認知症について考えてみましょう ～

📞 生涯学習課人権・同和教育係 ☎ 0943-32-0093

「認知症」と「アルツハイマー」

昨年9月時点で、総人口数に占める65歳以上の人口割合は、過去最高の約29パーセントとなりました。高齢化の進展が社会問題として取り上げられていますが、同時に認知症の人も増加していることはご存じでしょうか。

認知症とは、さまざまな脳の病気が原因で、脳の神経細胞の働きが低下し、認知機能が低下することで生活に支障をきたす状態をいいます。年齢を重ねるほど発症する可能性が高まるため、今後も増え続けると予想されています。

9月は「世界アルツハイマー月間」、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。これは、「国際アルツハイマー病協会（ADI）」と世界保健機関（WHO）が1994年に共同で制定しました。

アルツハイマーとは、認知症の原因疾患の一つで、認知症の6割を占めています。アルツハイマー型認知症に関する知識を高め、世界の患者と家族に希望をもたらすため、この日を中心に認知症の啓発が行われています。

「にんちしようを知って」

中広川小学校4年生

甲斐田 莉菜（現5年生）

わたしは、授業でにんちしようについて教わりました。にんちしようは、高れいの人に多いそうです。この時、わたしは「お母さんやお父さんにもにんちしようになっちゃうのかな」と、心配になりました。にんちしようになったら、身近なこともわすれてしまいます。「今、何時」や「ごはんまだ」などを何回も聞いてしまうそうです。言われた側は、ほとんどの人がいやになると思います。でも、そのことで周りの人がおこっしてしまうと、にんちしようの人は、ますます元気がなくなってしまうそうです。だから、「大丈夫だよ」と声をかけることが大切です。

わたしはまだ、にんちしようの人に会ったことはないけれど、もし大切な人や身近な人がにんちしようになったら、れいせいにやさしく接したいです。「にんちしようなんてなくなればいいのに」ではなくて、「にんちしようになっても、わたしが支えるから大

大丈夫だよ」と、思える人になりたいです。

にんちしようの人だけではなく、だれでも「大丈夫だよ」と、声をかけられるとうれしい気持ちになると思います。わたしも言われたらうれしくなります。だから、周りの友達や家族に「大丈夫だよ」とたくさん声をかけていきたいです。

令和4年度広川町人権作文集「あけぼの」より

自分の目線で認知症を理解し、今後の暮らしの中でさまざまな人々とのふれ合いを深め、自分のことも周りの人のことも大切にすることをさらに育んでほしいと思います。

「なるほど人権セミナー」を終えて

7月の「同和教育啓発強調月間」の啓発事業の一環として「なるほど人権セミナー」を開催しましたので、講義内容を紹介します。3回のセミナーを予定していましたが、7月10日の豪雨により甚大な被害が発生し、7月14日（金）の第2回と7月20日（木）の第3回

を中止としました。秋には「ひろかわセミナー」を開催予定です。ぜひご参加ください。

第1回（7月4日（火））

「私にとっての人権・部落問題」共に考えましょう



福岡県講師団講師 峰 司郎さん

アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）やマイクロアグレッション（無自覚の差別行為）は、相手を傷つけるだけでなく、自身の視野を狭めることにもなります。自分が疑問に思ったことは「それ、本当？」と問い直してみることが大切です。言葉を発する前に、行動する前に、相手にどう伝わるかを考えてみましょう。一人ひとりの思いやりが、明るい未来をつくりまします。